

第48回「議員と語ろかい」報告書

地域テーマ型 3班(No.1)

開催日	令和7年1月22日(水曜日) 19時00分 ~ 20時30分		
開催場所	高千穂地区公民館		
団体名	個人参加(牧園・霧島地区)	参加 人員	6人 (男 4人:女 2人)
出席議員	植山 太介、川窪 幸治、前川原 正人、野村 和人、塩井川 公子、前島 広紀、 前田 幸一、木野田 誠、下深迫 孝二、傍聴(有村 隆志)		
役割分担	班長(前田 幸一)、副班長(木野田 誠)、記録係(植山 太介)		
テーマ及び 具体的な内容	どうする温泉資源		

意見 交 換 で の 主 な 意 見 等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	◆霧島市では豊富な温泉エネルギーを活用した発電の可能性があるが、条例の制約が厳しく、小規模な発電設備の導入が難航している。例えば、5kwの発電機でも大規模発電と同じ厳しい審査が必要で、費用や手続きの負担が大きいため、民間企業による導入が進んでいない。これに対し、他の地域(熊本・宮城・長野など)では、排熱を利用した小規模発電の技術開発や導入が進んでおり、霧島市でも規制緩和が必要と考える。また、全国温泉サミットのような温泉活用の情報共有の場があり、自治体や企業が参加しているが、霧島市は未加入であるため、参加を促したい。
	◇取組はバイナリー発電か。
	◆その通りである。だからこそ、今捨てている資源を有効活用することなので環境保護の条例とは分けて考えた方が良いのではないか。
	◇霧島市の条例が規制緩和されたら温泉発電はトントン拍子で進むのか。また、鹿児島県としても取組が鈍いのはなぜか。
	◆中小企業にとっては単体での採算が厳しく補助金が必要。10年でペイできる程度のコスト構造だが、大量導入でコストを下げる必要もある。普及促進が鍵となり、業界全体での取組が求められる。
	◇条例の調査検討委員会へ有識者として参加できないか。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

◆参加させて頂けるならぜひ参加したい。専門家の知恵をお貸したい。

◆牧園地区では、硫化水素の影響で機械類の耐久年数が著しく短く、故障も多い。特別地域として補助などは考えられないか。

◇実際、照明等の維持管理費がかさみ、撤退した事業所も聞く。一般家庭においてもクーラーや冷蔵庫等、広く影響を与えている。専門の硫化水素対策のコーティングなどもある。地域独特の特殊な問題があると理解している。

◆資源や温泉が好きで移住したが、事業を始めると思った以上の精密機器の故障が起き、想定外のことも多い。暮らしの中でこのようなメリット・デメリットなどを事前にキャッチできれば助かる。

◇移住者も多いところであり、本来はメリット・デメリットを説明し、防ぎ方等も周知していく工夫も必要である。

◆地域の温泉資源は価値があるが、十分に活用されておらずもったいない。外部の視点で見ると「誰が儲かるか」「どのくらい収益になるか」といった数字の話があまりされていない。また、移住促進には「仕事」と「住居」の2つが鍵であるが、その議論も不足している。温泉そのものではなく、「温泉を活用したビジネス」が価値を持っている。民間主導で温泉の可能性をもっと広げ、そして海外からの観光客を呼び込む仕組みを作る。そのために、条例の見直しや補助制度の整備が必要。数字を基にした議論を活性化させ、地域に利益をもたらすビジネス展開を考える必要がある。

◆温泉資源の価値が十分に発信されていない。子どもの頃から温泉の価値を理解し、誇りをもてるような教育が必要。例えば、英語の教材で霧島市の温泉を取り入れたり、SNSで訪問者が自然に発信できる仕組みを作り、観光資源としての魅力を高める。本来の価値を地域住民が再確認し、それを効果的に発信していくことが重要であると感じる。

意見交換での主な意見等